

2008年9月26日

「デバイス開発センター」の設置について

住友化学は、高効率で高精細の高分子有機 EL デバイスの製造技術を開発することを目的に、愛媛工場に「デバイス開発センター」を設置することといたしました。「デバイス開発センター」には、印刷、電極形成、封止、パターニングなどデバイス製造に必要な各工程の設備を導入し、100%子会社であるケンブリッジ・ディスプレイ・テクノロジー社(以下「CDT社」)で開発したデバイス製造に関わる基本技術を活用して、有機 EL デバイスの実用的な製造技術を確立してまいります。住友化学は、この「デバイス開発センター」の活用により、顧客との共同開発を一層加速していく考えです。

住友化学は、1989年、他社に先駆けて高分子有機 EL の開発を開始し、2001年に高分子有機 EL 開発のパイオニア企業である CDT社と技術協力契約を締結いたしました。2005年には CDT社と合併会社「サメイション株式会社」を設立、さらに2007年には CDT社を完全子会社化し、事業化に向けた取り組みを加速しています。このたびの「デバイス開発センター」の設置にあたりましては、デバイスデザイン、素子技術、工業的生産技術などの CDT社が有するデバイス製造に関するプロセス技術や、サメイションの最新の発光材料技術、そして住友化学がこれまで蓄積してきたカラーフィルターをはじめとする情報電子化学分野におけるエンジニアリングや製造ノウハウなど、3社の持てる技術を最大限に融合、活用することで、実用的なデバイス製造技術の確立を目指してまいります。

現在、市場では低分子型の有機 EL の実用化が先行しておりますが、高分子型の有機 EL は、インクジェットなど溶液系のプロセスを用いて発光層を成膜することによりデバイスの大型化への適用が可能であり、コスト競争力にも優れています。住友化学は、今後、有機 EL 市場の拡大にともない、こうした高分子型の強みがより一層発揮されていくものと考えており、「デバイス開発センター」における製造技術の確立により、高精細でかつ大型の高分子有機 EL ディスプレイの本格的な市場展開を、早期に実現してまいります。

以上